

■今年度の活動内容設定時に参考とした「他校の環境に関する取り組み」

■今年度のグリーンカーテン実施状況

植物を育て、観察し、実を収穫し、その実を調理して食べる。その取り組みの中で、準備に必要な作業の時間数とその費用について、改めて児童と共に考える。

(朝顔、ゴーヤ、へちまなど)

その活動を通して、単に、種を蒔き、その成長を観察するだけでなく、経済やエネルギー、環境問題等の領域まで児童に考えさせることを目標にした学習活動を行う「他校の環境に関する取り組み」を参考にした。

□実施した ■実施していない

取組テーマ	取組目標	具体的な活動内容	担当者	活動主体	取り組んだこと、その実績	1年を振り返って
環境についての学習	・自然に親しみ自然を大切にする気持ちを養う。 ・昆虫の観察を通して、自然への愛着を育む。 ・自然の恵みを楽しむとともに、生活の中に活かす気持ちを養う。 ・身近な自然への興味関心を高める。 ・大豆の栽培、収穫、調理加工体験を通して、食と自然環境の関わりについて関心を高める	1 育てよう (個人の鉢や、学年の花壇を利用し植物を育て、その生長を観察するとともに、その経験を自分たちの生活に活かす。)	1~5年担任 理科担当教員	1年 2年 3年 4年 5年	育てよう・・・1,2年生の生活科、3,4,5年生の理科 ⇒個人の鉢や学年の花壇を利用し植物を育て、その生長を観察するとともに、その経験を自分たちの生活に活かした。 1年生ではアサガオとサツマイモ、パンジー、2年生ではミニトマト、3年生ではヒマワリ、4年生ではツルレイシ、5年生ではコメとサツマイモを、個人の植木鉢で、或いは、学年園で育てた。それぞれ、観察収穫をした。 ⇒花や実を使って学習活動を作った。 朝顔の花を使って色水を作り、その色水で水彩画を描いた。パンジーを育てて、卒業式や入学式の会場に飾った。種の数数を数えて算数の学習に、サツマイモで芋版を作って図工の学習に、サツマイモを販売して総合的な学習の時間に、それぞれ活かした。 ⇒色々な場所で色々な虫を捕まえ、「長生きさせる」という目標のもと、飼育した。その様子を観察し、観察日記に記した。 ⇒栽培委員会が担当し、学校花壇を整備した。季節に合わせて、どんな花を咲かせることができるのか調査し、そのための土作りから始め、花壇の整備や世話の仕方を調べ、活動した。季節に合わせて、学校の花壇に色とりどりの花を咲かせた。	■【取組の評価】 ■達成できた □ほぼ達成した □達成できなかった ・自然に親しみ自然を大切にする気持ちを養うことができた。 ・昆虫の観察を通して、自然への愛着を育むことができた。 ・自然の恵みを楽しむとともに、生活の中に活かす気持ちを養うことができた。 ・大豆の栽培、収穫、調理加工体験を通して、児童が、食と自然環境の関わりについて体験を通して知識を深め、身近な自然に対して興味関心を高め、環境問題に対して我が事として考え、行動する大切さを理解できた。 ・栽培委員から、活動を通して、「植物の成長は、土によって左右されることを知った。」という言葉が出てきた。その児童の気づきから、事前に学級園を耕し、肥沃な土を準備し、いつでも誰もが植物を栽培できるように「栽培用の土専用の土保管花壇」を作ることができた。
		2 育てよう (虫を捕まえて、飼ってみる。その様子を観察し、観察日記に記す。)				
		3 町探検	2・3年担任	2年 3年		
		4 すがたをかえる大豆 (大豆を育てよう)	3年担任	3年		
		5 陸稲の栽培	5年担任	5年		
		6 学校花壇の整備	栽培委員会担当	委員会 児童		
電気、水、物を大切に使う活動	・電気や水を大切にすることの必要性を学ぶ。 ・自分の持ち物を大切に使う意識を向上させる。	1 節電(教室の電気を天候に合わせて使う)	全担任と全職員	全校	・児童が学習したことを新聞にまとめ、「電気節電新聞」や「水道節水新聞」を発行し、全校児童へ節電や節水の必要性を訴え、全校に節電・節水への取り組みを促した。 ・校内で、つけっ放しになっている無駄な電気を消して歩く「暗いガードマン=クガーマン」や、校内で出しっ放し水道を止め節水を実践して回る「蛇口を閉めるガードマン=ジャガーマン」が誕生した。	■【取組の評価】 ■達成できた □ほぼ達成した □達成できなかった ・児童が主体的に考え、自ら選択し、責任をもって行動していけるように学習活動をつくることで、本校の光熱費や上下水道料金が、昨年度を下回るすることができた。
		2 節水(寒川浄水場を見学する)	4年担任	4年		
		3 全児童に自分の持ち物を大切にすよう呼びかける	全担任と全職員	全校		
		4 校内に、落とし物コーナーを設け、管理運営を行う	環境整備委員会担当	委員会 児童		
		5 電気自動車体験学習	5年担任	5年		
捨てるゴミを減らす活動	・ゴミの分別の必要性に気付かせる。 ・ゴミの少量化の必要性に気付かせる。 ・ゴミを資源として活かす心を育む。	1 ゴミの分別	全学年担任	全校	・ゴミの種類について調査活動を行った。 ・ゴミの種類に応じたごみ箱の必要性に気づき、複数のゴミ箱を教室に置くようにして、ゴミを分別して捨てるように取り組んだ。 ・児童が学習したことを新聞にまとめ、「ゴミ新聞」や「環境事業センター新聞」等を発行し、全校児童へゴミ少量化やゴミの分別、リサイクルの有用性を訴え、ゴミについての意識を高める取り組みを行った。	■【取組の評価】 ■達成できた □ほぼ達成した □達成できなかった ・児童が主体的に考え、自ら選択し、責任をもって行動していけるように学習活動をつくることで、本校のゴミ排出量が、昨年度を下回るすることができた。
		2 美化活動	全学年担任	全校		
		3 環境事業センターの見学	4年生担任	4年		
		4 学校環境改善プロジェクト	環境委員会担当者	委員会 児童		

私はクガーマンです

バンバン消します

無駄な電気は



給食場とコラボして

ゴミ小量化に挑戦です



落とし物コーナー
スペースを拡大
見やすく取りやすく
自分の物には名前を書こう!

とっても大事な
お花です。

花を
咲かせました

長い期間
一生懸命
育てて

愛情を込め
世話を
して

私達・僕達が



●学校長(推進責任者)によるコメント

【学校長名】

日高 大司郎

【今後の方向性について】

ある教室で、「米作りに従事する人々の暮らし」という内容の社会科の授業を参観していた時のことです。子ども達が次のようなやり取りをしていました。

「美味しいお米を作るには、いい土といい水といい空気が必要だそうだよ。」

「いい土いい水、いい空気って、どうやって作るの?」

「土や水、空気なんて作れないよ。」

「きれいな土やきれいな水ならできるかも…」

「土や水や空気を汚さなければいいと思います。」

この後、環境保護・環境保全について話題が移り、最終的に「ゴミを捨てていると、美味しいお米が食べられなくなる」という思いにまとまりはじめました。そこに、

「肥料をたくさん使うと美味しいお米ができるかもしれないけれど、肥料を作るには、すごくたくさんのエネルギーが必要で、石油やお金もかかるし、煙もたくさん出て、空気も汚れてしまうかも…」

という意見が出て、

「美味しいお米を食べるには、みんなが協力して、地球に優しいことをしないとイケない」ということにまとまりました。

最後に、「美味しいお米を食べるために、これからあなたができることを書き出そう」という課題で、作文を書いて授業が終わりました。

今後の方向性は、「①問題を発見し、②その問題を解決するために、今、自分は何ができるか考え、③責任をもって実際に行動する」そういう子ども達を育てていくことだと思います。

●写真等の記録:活動や発表の風景等取組の記録を、必要に応じて添付してください。写真等の下に、キャプションをご記入ください。個人情報の取り扱いにご注意ください。